

2024年度 活動報告書

結梨 梨葉プロジェクト

代表：農学部生命環境農学科植物菌類生産科学コース

2年 田宮麻鈴

【プロジェクト概要】

メンバー：2年生4名・1年生8名 計12名

私たちは地元農産物である梨や柿の栽培、それらを活用した鳥取県の新たな商品開発や販売に取り組み、六次産業化を目指している。最近、ポリフェノールが豊富に含まれていることから梨の葉が注目されており、その梨葉を利用したお茶の開発が進められている。そこで私たちはそのお茶にあい、そして様々な年齢層の方に親しまれる梨葉を使用したスイーツの開発に進めることにした。このスイーツ開発が成功することによって現在勢いが落ちてきている梨産業の活性化につながると考える。

【地域の協力先】

NPO 法人 bank up 中川玄洋さん→各企業との橋渡し、様々な手続きのサポート

サンパック 森貴洋さん→梨葉の提供

紅茶の会 藤原一輝さん→梨葉茶の開発・製造、マーケティング

パティスリー ボンヌノノ 岸本典子さん→スイーツの監修

【プロジェクト内容】

(1) 6月10日 梨葉の収穫

倉吉の圃場に行き、試食会用に使用する梨葉の収穫を行った。収穫後はアジトで梨葉を水洗いし、水をきった後、サンパックの森貴洋さんの紹介で梨葉の乾燥を行える工場を紹介していただき、持ち込んだ。乾燥した梨葉は2日後に回収した。写真は左：倉吉の圃場、右：収穫した梨葉



(2) 6月15日 第2回試食会 in CDL

CDL で第 2 回試食会を行った。前回の試食会のアンケートやボンヌノノの岸本さんの意見を参考にし、前回の 13 種類からシフォンケーキ・小倉マフィン・どら焼き・シュークリームの 4 種類を提供した。試食だけではなく、今後のスイーツ開発・製作の参考にするためアンケートにも協力していただいた。49 名の方からアンケートの回答を得ることができた。また、試食会後にはボンヌノノの岸本典子さんに試食をお願いし、アドバイスをいただいた。アンケート結果は以下の資料の通り。写真は試食会の様子。

[梨葉アンケート\(2\).xlsx](#)

[梨葉アンケートコメント\(1\).docx](#)



(3) 6 月 23 日 第 3 回試食会 in とっとりリーダーズアカデミー

紅茶の会会長の紅茶の会 藤原一輝さんのご厚意で鳥取市民交流センターで行われたとっとりリーダーズアカデミー開校式で試食会を行うことができた。前回の試食会はオーダー制だったが、今回の試食会はバイキング形式でスイーツの提供を行った。今回も前回と同様に試食だけではなく、アンケートも実施した。28 名の方からアンケートの回答を得ることができた。ただスイーツの提供を行っただけではなく、実際に地域や企業の方々会話し、一緒に社会の現状や課題について意見交換した。この活動を行っていく上で良いヒントとなるものを得た良い機会となった。アンケート結果は以下の資料の通り。写真は試食会の様子。

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1cIKrGxNw8qJHbBbe45fwYVtK2B6LPaE2dsl9lW-RgIY/edit?gid=968354302#gid=968354302>

[梨葉アンケートコメント（リーダーアカデミー）.docx](#)



(4) 7月8日 プロジェクト会議

森さんや藤原さんなど梨葉プロジェクトに関わりのある方に全2回の試食会で行ったアンケートの結果について報告を行った。また、スイーツの開発・製作を進行するにあたってその予算をどのように捻出するのかという議題があがり、その1つの方法としてクラウドファンディングが出た。もしクラウドファンディングをするならばどのように進めていくかについてや私達がこれからすべきことなどを決定した。

(5) 7月22日 プロジェクト会議

前回の参加者に加えてボンヌノ岸本典子さんに出席していただき、どの梨葉スイーツを販売するかなど商品化に向けて具体的な方向性や予定を決定するための会議を行った。梨葉スイーツはお土産を想定しているため私たちが考えたスイーツは日持ちしないものが多いため、もっと日持ちするビスケットなどはどうかという意見を岸本さんからいただいた。また、実際に梨葉を練りこんだビスケットをお持ちいただき、全員で試食した。アンケートの結果や岸本さんたちの意見を基にして、最初にビスケット、次にマフィンを商品化することに決定した。前回の会議では曖昧であったクラウドファンディングを行うことの正式な決定、行うために必要なことやスケジュールを検討した。

(6) 10月21日 プロジェクト会議

梨葉プロジェクトに関わるすべての関係者で会議を行った。クラウドファンディングで支援をお願いするホームページにどのようなことを載せるかについて結梨が原稿を作成し、それを用いて公開時期・金額・活用法など今後について話し合った。また、クラウドファンディングを行うにあたって倉吉農業高校の協力もお願いするため顔合わせを含めたこのプロジェクトについての概要のすり合わせを行った。前回の会議で依頼されていた梨葉スイーツ用のパッケージデザイン案の提案・ブラッシュアップを行った。パッケージデザイン案は主に1年生が担当した。写真左：参加者全員の写真 右：会議の様子



(7) 1月11日 梨葉広報in こども食堂ぽっと

1年生3人がこども食堂ぽっとさんにて、地域の方に「梨葉」について知ってもらう広報活動の一環として子供たちと一緒に梨葉クッキーを作った。実際の広報活動は始めてだったため、良かった点もあったが反省点もあった。良かった点は子供たちだ

けではなく、職員の皆さんにもクッキー作りやクイズを通して「梨葉」に興味をもっていただけたことである。反省点はスケジュールなどの決定が直前であったため、準備不足な部分もあり、思い通りの活動ができなかった。次回の活動ではそのようなことがないように終了後、振り返りを行い、準備期間の見積もり・試作など改善策を練っていく必要がある。写真左：梨葉クッキー 右：子供たちと一緒にクッキーを作る様子



(8) 1月31日 プロジェクト会議

クラウドファンディングの実施期間が正式決定・準備の進捗状況・コーディネーターさんとの打ち合わせ内容の報告、クラウドファンディングを行うにあたっての確認事項の確認などを行った。また、クラウドファンディング期間中・終了後のプロジェクトスケジュールの予定を大まかなではあるが立てることができた。クラウドファンディング成功に向けて今一度気を引き締め直した。

【プロジェクトまとめ】

この1年間で2度の試食会を行い、様々な年齢層からのデータを収集・解析を行い具体的にどのスイーツを商品化するかを決定できたことはプロジェクト全体の目標である鳥取県の新たな特産品を開発することへ大きく近づくことができた。また、開発だけではなく、クラウドファンディングという広報活動の決定を当初の1年間の目標にプラスして行うことができた。今後の展望としてまず、クラウドファンディングの成功、その後の本格的な商品化の予定設定・流通ルートの確保を行っていきたい。